

美幌町次世代育成支援行動計画（後期計画）の実施状況について

次世代育成支援行動計画（後期計画）の平成25年度までの進捗状況については以下のとおりです。

評価方法	A：事業内容を達成した
	B：事業内容をほぼ達成した
	C：一定程度実施出来た
	D：着手はしたが一定程度まで達しなかった
	E：着手できなかった

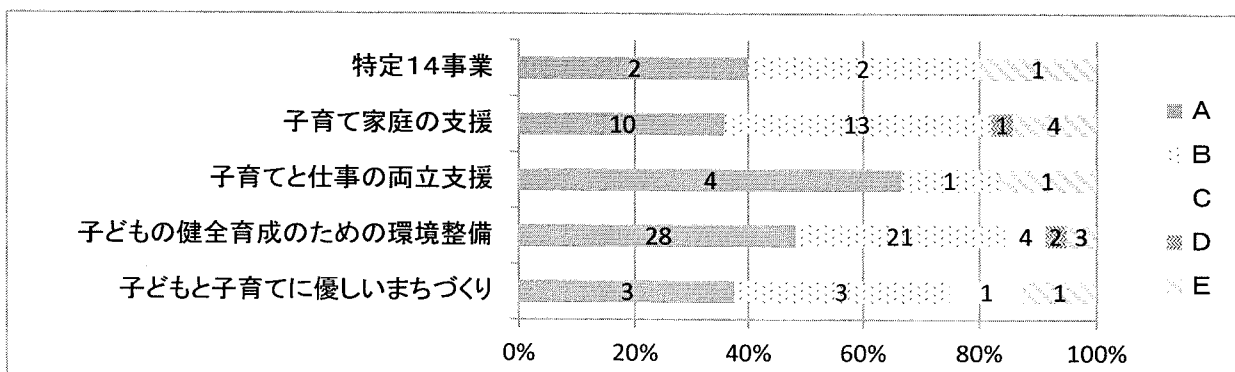
次世代育成支援行動計画（特定14事業）						
事業名	事業数	評価				
		A	B	C	D	E
特定14事業	5	2 40.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%

次世代育成支援行動計画（特定14事業以外）

基本施策	事業数	評価				
		A	B	C	D	E
子育て家庭の支援	28	10 35.7%	13 46.4%	0 0.0%	1 3.6%	4 14.3%
子育てと仕事の両立支援	6	4 66.6%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%
子どもの健全育成のための環境整備	58	28 48.3%	21 36.2%	4 6.9%	2 3.4%	3 5.2%
子どもと子育てに優しいまちづくり	8	3 37.5%	3 37.5%	1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%
小計	100	45 45.0%	38 38.0%	5 5.0%	3 3.0%	9 9.0%
合計	105	47 44.8%	40 38.1%	5 4.7%	3 2.9%	10 9.5%

次世代育成支援行動計画（後期計画）に位置づけた事業の実施状況について評価を行った結果、「A 事業内容を達成した」の割合は44.8%、「B 事業内容をほぼ達成できた」の割合は38.1%となっており、合わせると82.9%が目標達成に向けて計画どおりに進捗しています。

基本施策別では、子どもの健全育成のための環境整備での進捗状況が高くなっています。



次世代育成支援行動計画（特定14事業）の進捗状況について

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	25年度実績	26年度予定	事業達成度	事業の評価	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方	事業方針の内容（未実施・廃 止・中止の理由、追加・拡大の
乳幼児健康支援一時預かり事業（病後児保育〔派遣型〕）	保育所に通所している児童が病気の回復期である場合に、看護師等を派遣し、その居宅で保育を行う。	児童支援		未実施	未実施					
ファミリーサポートセンター事業	子育ての援助を要している人で行いたい人を会合とする組織により、保育所（園）への送迎や、一時的な預かり保育等について、助け合いを行う。	児童支援	1カ所 (26年度)	未実施	未実施	E 善手できなかつた	現体制での実施及び協力会員の確保が難しいため実施出来なかった。		未実施	量の見込みの推移も少ないため、今後の状況をみながら事業実施について検討していく。
放課後児童健全育成事業(学童保育所)	保護者が、昼間就労などにより保育ができないおおむね小学校3年生までの児童を対象に、適正な遊び及び生活の場を確保、児童の健全育成を図る。	児童支援	3カ所 (26年度) 150人	学童保育所3カ所 146人	学童保育所3カ所 147人	A 事業内容を達成した(100%)	共働き家庭が増え保育が出来ない児童の預かりを実施出来た。		継続	
子育て短期支援事業(ショートステイ事業)	保護者の疾病、仕事、育児疲れなどによって、児童の養育が一時的に困難となった家庭の児童や母子を短期間（原則7日以内）預かる。	児童支援		未実施	未実施					
子育て短期支援事業(トワイライトステイ事業)	保護者が仕事その他の理由で、平日の夜間又は休日に不在となり、家庭での児童の養育が困難となった場合に、保護し、生活指導、食事の提供等を行う。	児童支援		未実施	未実施					
乳幼児健康支援一時預かり事業(病後児保育〔施設型〕)	保育所に通所している児童が病気の回復期である場合に、病児等の施設又は保育所（園）で一時的に預かり、保育を行う。	児童支援	500日 3カ所 (26年度)	329日(30人) 3カ所 子育て支援センター 常設保育所2カ所	400日(40人) 3カ所 子育て支援センター 常設保育所2カ所	B 事業内容をほぼ達成した(80%)	毎年300日以上の緊急的な一時預かりを実施出来た。		継続	
一時預かり事業(一時保育事業)	保護者のパート就労等や冠婚葬祭、疾病、入院等により、緊急・一時的に保育を必要とする児童の保育を行う。	児童支援		未実施	未実施					
特定保育事業	保護者の就労形態の多様化に対応して、週2、3日程度、又は午前か午後ののみなど、必要に応じて保育を行う。	児童支援		未実施	未実施					
つどいの広場事業	乳幼児を持つ子育て中の親が、気軽に集い交流する場を開設して、相談に応じ、情報の提供及び助言等を行う。	児童支援		未実施	未実施					
地域子育て支援センター事業	乳幼児の保育に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うとともに、子育てサークルへの支援等を行う。	児童支援	1カ所 定員 120人 常設	1カ所 延11,217人利用	1カ所 延12,000人利用	A 事業内容を達成した(100%)	満3歳で就園する子供が多かったのことで、減少するかと困ったが、前年度より利用者が増えて良かった。	親子が楽しく過ごせる場、親のニーズに答えられるようなセンター開放を行ってほしい。	継続	
通常保育事業	保護者の労働や生活等により、家庭において児童を保育することができないと認められる場合に、保護者等に代わり、保育所（園）での保育を実施する。	児童支援	定員 120人 常設	実績 100人	定員 96人 実績 120人	B 事業内容をほぼ達成した(80%)	年々児童数は減少しているが、保育所に欠ける児童を対象に保育所（園）での保育を実施できた。		継続	
延長保育事業	保護者の就労形態の多様化に対応するため、通常の保育時間(11時間)を超えて保育を行う。	児童支援		未実施	未実施					
休日保育事業	日曜・休日等に保護者の就労等で保育に欠ける児童の保育を行う。	児童支援		未実施	未実施					
夜間保育事業	基本的に保育時間をおおむね午前11時から午後10時までの11時間としている保育センター。	児童支援		未実施	未実施					

次世代育成支援行動計画（特定14事業以外）の進捗状況について

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	25年度実績	26年度予定	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針 （今後の内容（実施・廃止・中止の理由、追加・拡充の内容））
1 子育て家庭の支援									
エンゼルサポート 120	2歳未満の乳幼児を育てている子育て世帯を応援のため、おむつ用ごみ袋を支給。申請は1回、月5枚を基本に最高120枚支給。	保健福祉	（21年度）	支給174人 19,070枚	支給170人 19,000枚	A 事業内容を達成した（100%）	おむつ用ごみ袋を支給することにより、子育て世代の経済的負担の軽減が図られた。	今後も継続的に実施することにより経済的負担を軽減し、子育て支援を図っていく。	継続
子育てガイドブック発行	保育サービスや公共施設、保育所、公園などの情報を親に提供している。	児童支援	（21年度）	継続	継続	A 事業内容を達成した（100%）	平成24年度に内容を改訂し発行している。		継続
インターネットによる子育ての情報提供する	保育サービスや公共施設、保育所、公園などの情報を、携帯電話やインターネットを利用して親に提供している。	児童支援 保健福祉	（21年度）	実施	実施	A 事業内容を達成した（100%）	行事等をHPに載せたりして情報提供を行っている。		継続
しゃきとブラザの活用	プレイルームを子育て期の居場所や相談の場として有効活用する。	保健福祉	（21年度）	プレイルーム利用数 1,075組 延べ2,638人	プレイルーム利用数 1,000組 延べ2,600人	A 事業内容を達成した（100%）	子育て中の親子の居場所や交流の場として活用されている。	施設、備品等の計画的な更新	継続
妊婦の健康支援	安心・安全な妊娠出産ができるよう妊婦一般健康診査にかかる費用を助成することにより母体・胎児の健康確保を図る。	保健福祉		助成128人	助成170人	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	妊婦一般健康診査にかかる費用を助成し妊婦及び胎児の健康管理の充実、経済的負担の軽減が図られた。	妊婦向け出張相談や産後ケアの提供がわがが改善に向けて妊婦に普及していく。	継続
新生児等訪問指導	新生児と保護者両者に育児や発達に関する相談、育児相談、健診や予防接種の説明などを行う。	保健福祉		147件	170件	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	家庭訪問により母子の健康の保持増進と育児不安の軽減を図ることができた。	育児不安がある母親は増えており今後支援を続けていく。	継続
乳児相談	健やかな子どもを育てるために、母親の相談に応じ、乳幼児の健康確保増進を図り、育児を支援する。	保健福祉	12回	12回	12回	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	母親の相談に応じ、必要なサービスにつなげたり乳幼児の健康確保増進を図ることができた。	育児不安がある母親は増えており今後支援を続けていく。	継続
乳幼児健康診査	発達の良い乳児に対し集団検診を実施し、異常の早期発見、離乳食指導、育児指導を行い、乳児の健康確保増進を図る。	保健福祉	12回	4か月：12回 10か月：9回	4か月：12回 10か月：9回	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	異常の早期発見、離乳食指導、育児指導により乳児の健康確保・増進が図られた。	育児について悩みを訴える母親は多く、育児相談室や訪問指導で発達後フォロー支援をしていく。	継続
1歳6か月健康診査	運動機能、精神発達、聴覚などの異常の早期発見、助言、育児・栄養・歯科指導を行い、幼児の健康確保増進を図る。	保健福祉	9回	9回	9回	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	発達に遅れのある児の早期発見、育児相談室を併用し、幼児の健康確保・増進を図ることができた。	今後も未受診者に対し、受診勧奨し状況確認と必要時支援を継続していく。	継続
3歳児健康診査	幼児期における疾病、相談等の異常、精神・運動の発達遅滞等の早期発見を行い、幼児の健康確保増進を図る。	保健福祉	9回	9回	9回	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	児の発達遅れや相談等の異常等の発見、必要な医療や支援機関につなぐことにより、健康確保・増進が図られた。	引き続き他機関と連携し、未受診者に対する働きかけ、状況把握に努める。	継続
5歳児相談	集団生活を行う中で養われる社会性の発達、自己制御力の発達の確認を行い必要な支援を図る。	保健福祉		7回（19名）	7回（21名）	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	家族や関係者が児の特徴や対応方法について理解することができた。支援機関につなげられた。	就学に向け、関係機関との共有や連携の機会を確保していく。	継続
移動総合相談	専門機関による発達遅滞児の相談、発達課題の確認、福祉制度実施のために必要な判断の確保を図る。	保健福祉	8回	7回（21名）	7回（21名）	A 事業内容を達成した（100%）	児童相談所職員による発達遅滞児の相談、発達課題の確認、福祉制度実施のために必要な判断の機会を提供することによってできた。	今後も発達支援センター等と連携しながら、相談・支援につなげていく。	継続
食育学習機会の提供	夏休みなどを利用して親子調理教室の開催やしじきなどの情報提供、食生活に対する学習機会の提供	保健福祉	（21年度）	小学校児童対象 食育教室2回15人	小学校児童対象 食育教室2回15人	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	親子の調理教室は実施していないが子どもとの実習機会が年2回に充実した。	引き続き夏休み、冬休みを利用した調理教室の開催を継続する。	継続

事業名	事業内容	担当	事業目標	25年度実績	26年度予定	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の事業方針	事業方針の内容(未実施・廃止・中止の理由、追加・拡充の内容)
地産地消の推進	安心・安全な食材の提供を目指し地産地消に取り込む。	学校給食	美幌産米の使用 収穫時～毎月1回 美幌産野菜使用 (21年度)	美幌産米の使用収 穫時～毎月1回 美幌産野菜使用 参加証 24名	26年度予定 美幌産米の使用収 穫時～毎月1回 美幌産野菜使用	A 事業内容を達成 した(100%)	目標を達成することができた。		継続	
子どもチャレンジ クッキング	料理を通して地元産物や素材を学ぶ機会をもち、生活に必要な基礎的な技術を習得する。	社会教育	美幌産米の使用 収穫時～毎月1回 美幌産野菜使用 (21年度)	年2回 参加証 24名	年2回 定員 30名	B 事業内容をほぼ 達成した(80%)	主にお菓子作りをとおし、料理の技 術を学ぶと共に、七夕など季節の行 事を取り入れ、生活様式を学ぶ機会 を作る事ができた。		継続	
思春期保健対策の充 実	思春期の身体を守る正しい知識と情 報伝達のため学校等と連携をとり、 学習機会や相談体制の充実、医師、 保健師の講座開催	保健福祉	(21年度)	小学生139名	小学生190名	B 事業内容をほぼ 達成した(80%)	学校と連携しながら、薬物・喫煙に 関する健康教育を実施し学習の機 会をもつことができた。	今後も継続実施に向け、学校と連携を 図っていく。	継続	
産婦人科医療対策 (助産師相談の充 実)	産婦人科医師の確保に最大限に取り 組む。	町立病院	(21年度)	未実施	未実施	E 着手できなかつ た	産婦人科医師が配置されるまでエン トリーネットで対応している状況。		継続	
妊婦エントリーネッ ト119	事前に妊婦情報を届け出、登録され ると、緊急時がある場合判断したとき に出産予定医療機関へ、救急車を呼 びだして妊婦を搬送する。	消防署	(21年度)	登録 90名 うち、搬送 3名	登録 20名 うち、搬送 0名 (H26.7.24現在)	A 事業内容を達成 した(100%)	制度の認知度も高くなり、登録者は 年々増加傾向にある。	安心・安全なお産を提供できるよう、救 急搬送員の産前ケアに対する研修の継続 と手技等の向上・維持を図る。	継続	
ひとり親への相談体 制の整備	増加傾向にあるひとり親世帯に対 し、自立支援、就業支援、相談体制 の充実と福祉サービスの情報提供を 推進する。	保健福祉	(21年度)	未実施	未実施	E 着手できなかつ た	個々の事例に対応している状況。体 制整備は出来ていないが美幌町福祉計 画において計画しているため継続と する。		未実施	今後も状況をみながら検討してい く。
障がい児施策の充実 (NPOへの支援充 実)	障がい児に合わせた確かな情報提供を 行う。NPOマイペース美幌への支 援、連携を行い、子どもの権利条約 の啓蒙、充実を図る。	保健福祉 児童支援	(21年度)	緊急雇用創出推進 事業による人材 の支援	未実施	A 事業内容を達成 した(100%)	人材費の支援により、利用者に対す る十分なサービス提供につなげ、 NPOへの支援の充実が図られた。		中止	目標としたNPOへの支援を行う ことができ、障がい児支援施策の 充実を図ることが出来たため。
子ども発達支援セン ター(母子通園セン ター)	発達に心配のある幼児、障害を有す る幼児に対し、通園の方法により指 導を行い、育成を助長する。	児童支援	(21年度)	1か所 定員20名	1か所 50名	B 事業内容をほぼ 達成した(80%)	指導員1名増につき24年度より多く の利用者を受け入れることができ た。	利用希望者が増えることが予想される。	拡大	人員と療育室の確保
幼児ことばの教室	幼児の健全育成と福祉の増進を図 り、心身ともに健やかに育成される よう援助し、必要な指導を行う。	児童支援	(21年度)	1か所 38名	1か所 40名	A 事業内容を達成 した(100%)	利用希望者が増えることが 予想される。	利用希望者が増えることが予想される。	拡大	人員と指導室の確保
児童虐待防止対策の 充実(関連機関の連 携)	児童虐待を未然に防ぐとともに虐待 にあった子どもを守るため、虐待 ケースワークチームの連携を密に し、広報活動を行う。	児童支援	(21年度)	継続	継続	A 事業内容を達成 した(100%)	ケース会議を開催し対応している。		継続	
プレママクラス(妊 婦中からの講座)	妊婦中から子育ての準備づくりにつ いて学習するとともに、仲間づくり を行い、子育ての孤立化を防止す る。	保健福祉	3回	3回(99件)	3回(120件)	B 事業内容をほぼ 達成した(80%)	子育ての認識づくりについて学習が でき、妊婦同士の交流を図ることが できた。	マタニティストレッチ、離乳食作り、健 康管理の学習などプログラム内容の改善	継続	
両親教室(妊婦中か らの講座)	妊婦中から子育ての準備づくりにつ いて学習するとともに、仲間づくり を行い、子育ての孤立化を防止す る。	保健福祉	3回	3回(22件)	3回(25件)	B 事業内容をほぼ 達成した(80%)	妊娠、出産、育児における父親の役 割を理解することができた。	プログラム内容の改善	継続	
子育てサロン・子育 てサークルの育成 (子育てサロンの設 置)	子育てサロンや子育てサークルの設 置のため、行政とサポーターチーム による世代間交流推進	児童支援 保健福祉	(21年度)	未実施	未実施	E 着手できなかつ た	要望もなく、着手するにいたらな かった。	要望に応じて、人材を見つけて着手でき るようになっている。	未実施	引き続き状況をみながら検討して いく。
子育てサポーターの 養成(保育ママ、サ ポーター養成講座 会、登録、活用)	子育てサポーターを支援する人材の発掘と 養成のため、子育てサポーター養成 講座会を実施するとともに、登録 し活用する。	児童支援	(21年度)	登録 0名 年 1回開催	登録 10名 年 1回開催	D 着手はしたが一 定程度まで達しな かった(30%)	4名の申し込みはあったが、全講習 を受講できなかったため、登録者は なしとなった。	前年度の受講者の補助講習、登録者の増 えに力を入れていきたい。	継続	
子育て支援ネット ワークの設置	子育てサロン、子育てサークルの開 設のため、行政とサポーターチ ームによる世代間交流推進	児童支援	(21年度)	未実施	未実施	E 着手できなかつ た	ネットワーキングづくりの着手ができな かった。	研修会などの参加で、他の町の話を聞く など、ネットワーキングづくりをしていき たいと思う。	未実施	情報収集に努めネットワークの設 置を目指す。

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	25年度実績	26年度予定	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容(未実施・廃止・ 中止の理由、追加・拡充の内容)
2 子育てと仕事の両立支援										
保育園開放事業	乳幼児の子どもとその親に保育園を開放し、遊びの場を提供することにより、子育て家庭の育児支援を行う。	児童支援	2か所 年2回	2か所 各保育園年6回	2か所 各保育園年6回	A 事業内容を達成した(100%)	予定通り園開放事業を実施でき、保育園児との交流、紹介ができて良かった。	親のアングラートをもとに、保育園とも話し合い、進めていきたい。	継続	
学童保育一時預かり事業	おおむね小学校3年生までの児童を対象に緊急・一時的に保育を必要とする児童の保育を行う。	児童支援		未実施	未実施	E 着手できなかつた	受入体制の整備が困難なため実施することが出来なかった。		継続	
妊婦健診時一時保育	産2子以降の出産の機会、産外の産婦人科病院(産院)に入院することや、記憶する親戚等がいはいの場合に子育て支援が欠けて一時的に上の子の成長を行う。	児童支援		延 26日(21人)	延31日(人)	B 事業内容をほぼ達成した(80%)	初めての方、妊婦さんに声をかけをしサービスを知らせ、安心して健診を受けてもらえたと思う。	今後母親連に通知し、安心して健診に出かけられる場にしていきたい。	継続	
多様な保育施策の充実・促進	事業所内保育施設などの認可外保育施設に対し児童園の充実のための助言や指導に努める。	児童支援		実施	実施	A 事業内容を達成した(100%)	道で実施する立入調査に同行し指導を実施している。		継続	
八ヶ池保育所の運営	上美郷、福住及び田中地区の八ヶ池保育所を11月を境に11ヵ月間運営し、八ヶ池の保育需要に対応していく。	児童支援		定員150人 実績45人	定員150人 実績47人	A 事業内容を達成した(100%)	各保育所、毎年10人以上の児童を受入し保育を実施できた。		継続	
季節保育所の運営	毎年4月から12月までの9ヵ月、鷹巣町などにおける就労形態に配慮し地域の保育需要に対応して保育を実施する。(中央保育所)	児童支援		定員150人 実績47人	定員100人 実績37人	A 事業内容を達成した(100%)	平成25年度まで鷹巣保育所を休止し中央保育所1ヵ所での運営となり保育を実施している。		継続	

3 子どもの健全育成のための環境整備										
父親の子育て参画の啓発	父親が子どもと過ごす時間を設け、母親がフレキシブルにする時間を確保するとともに男性の子育て参加を促進する。	保健福祉	(21年度)	啓蒙活動の実施	啓蒙活動の実施	B 事業内容をほぼ達成した(80%)	両学期同時に、妊娠、出産、育児における父親の役割を伝え、育児参加を促すことができた。	今後も父親の育児参加を促していく。	継続	
父親の育児参画の推進(講座・イベント開催)	男性の子育て参加を促すため、父子参加事業の企画、両親教室の拡大、プレバハワラスの実施などを行う。	社会教育	(21年度)	親子で過ごす教室(年1回)	実施予定無し	C 一定程度実施できた(50%)	他の町の事業の重視も早られ現行と並行の事業としては役割を終えたと与える。	子育てに関する別のアプローチを検討する。	中止	内容が他の事業との重複が見られるため事業中止し見直すこととする。
コミュニケーションハウスの開設	あらゆる世代がふれあい、語り合い、学び合う活動を通して、子どもたちを地域全体で育てようとする交流の場を開設する。	社会教育	(21年度)	コミュニケーションツール事業の一環として実施	コミュニケーションツール事業の一環として実施	C 一定程度実施できた(50%)	各校区で主体的な取り組みを進めていった。	より多くの地域のの人に参画いただけるよう呼びかける。	継続	
コミュニケーションスクールの充実	事業・イベントの開催・運営主体に小中高生が参画し、取り組む。年々下のふれあいの場が広がる。	社会教育	(21年度)	4学校区開設	3学校区開設	B 事業内容をほぼ達成した(80%)	各校区で主体的な取り組みを進めていった。	事業内容の充実を社会教育Gと情報交換をしながら進める。	継続	
子ども参画行事の推進	事業・イベントの開催・運営主体に小中高生が参画し、取り組む。	社会教育	(21年度)	少年教育事業での取り組み	少年教育事業での取り組み	C 一定程度実施できた(50%)	平成24年度より子どもたちが主体的に事業を計画していく「おもしろキッズ共和国」も開設し、今後、一層の事業充実を図る。	子どもたちがより主体的に関われるように事業内容の工夫を行う。	継続	
子どもちよっこ体験教室	職業体験など社会性に留意した体験活動の機会の拡充を目指し、自ら進んで興味・関心を持ち、体験できるような新鮮で意義あるプログラムの提供を行う。	社会教育		年2回 参加延 38名	年3回 定員 30名	B 事業内容をほぼ達成した(80%)	列車の乗車体験など社会的に必要な知識・技術を身につけるきっかけを作る事ができた。	職業体験や、歴史・文化など様々なテーマから新鮮な体験を提供できるような関係委員と連携して取り組む。	継続	
中高生と乳幼児のふれあい体験	赤ちゃんなどのふれあい体験を通して、育児体験や生命を感しむ心を育てる機会を図る。	社会教育	(21年度)	未実施	予定無し	E 着手できなかつた	参加者の声により内容を見直す必要があり、未実施となった。	事業の見直しを行う。	中止	事業内容の見直しにより、乳幼児とのふれあいに限定せず、多様なボランティアに関与する学びの機会とする

事業名	具体的事業内容	担当グループ	事業目標 達成予定年度	25年度実績	26年度予定	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大的内容）
家庭・地域の教育力向上のための学習機会の充実	各自自治会の活性化促進、「人材」の掘り起こしと繋がり、地域ぐるみの見守りの力向上させる。	社会教育	(21年度)	地域資源リスト作成 年3回 参加158名延29名	地域資源リスト作成 年3回 定員無し	C 一定程度実施できた (50%)	情報提供の方法や、情報の更新などに課題がある。	できる限りのシニアな情報提供と情報更新の方法の検討を進める。	継続	
わんぱく教室（サークル開設講座）	親子のふれあいを深め、参加者相互のコミュニケーションを図る。	社会教育	4回 定員 30名	参加14名 参加計 14名	年3回 定員無し	A 事業内容を達成した (100%)	乳幼児を子にもつ母親の交流が活発に行われた。	継続して母親の同士の交流が図れる事業を促進する。	継続	
通学合宿	異なる学校や学年の子どものちがいを認め、1週間ほど集って宿泊生活から学校へ適応することにより、異年齢の集団活動や生活体験活動を行う。	社会教育	年1回 定員 30名	参加138名 参加延 138名	年8回 定員30名	B 事業内容をほぼ達成した (80%)	心算と美観のフィールドを生かした年度ごとにテーマを変え、参加者にたくさん情報を与え、体験活動を実施できている。	子どもたちが自主的に考えて進めるプログラムを充実させる。また、学活活動の充実も検討する。	継続	
びほろふるさと体験隊	通年で、農業体験・自然体験・仲間づくりを行う。（社会教育との連携事業）	社会教育	年1回 定員 30名	参加延 138名 参加 4組10名	年8回 定員30名	B 事業内容をほぼ達成した (80%)	一般市民が実行委員会を組織し、子どもたちに科学的楽しさを伝える事ができた。	美観町の魅力を伝える事ができるような効果的なプログラムを継続的に構築する。	継続	
おもしろ科学の祭典inびほろ	自然科学の不思議さ、楽しさを体験することにも、ことごとく本人まで科学実験を通して互いにふれあいを、人と人とのつながりの大切さを感じ取る機会とする。	社会教育	年1回 定員 30名	参加延 138名 参加 4組10名	年8回 定員30名	B 事業内容をほぼ達成した (80%)	陶芸体験などマナビティセンターを利用してのサークルの技術の社会還元を進めることができた。	各小学校PTAにも協力いただいているが、さらに協力いただける地域の方を募りたい。	継続	
子ども対象サークル開設講座	マナビティセンター利用サークルの主旨により、親子や子どもの体験の場を拡充することにも、地域人材と子どもがふれあう機会を作る。	社会教育	年1回 定員 30名	参加延 138名 参加 4組10名	年8回 定員30名	B 事業内容をほぼ達成した (80%)	文化的な体験について土曜日を活用し提供できる事ができている。	さらに多くの分野で実施ができないか関係サークルと検討を行う。	継続	
キッズカルチャークラブ	土曜日の休日を活用し、地域人材と子どもがふれあう機会を拡充する。	社会教育	年1回 定員 30名	参加延 138名 参加 4組10名	年8回 定員30名	B 事業内容をほぼ達成した (80%)	地域人材の活用について土曜日を活用し提供できる事ができている。	子どもにとっても、生涯学習施設として気軽に足を運んでもらえるよう、事業を促進したい。	継続	
学校週5日制に伴うスポーツ活動の場の提供。スポーツの楽しさを理解してもらいスポーツの日常化を図る。	学校週5日制に伴うスポーツ活動の場の提供。スポーツの楽しさを理解してもらいスポーツの日常化を図る。	スポーツ振興	年1回 定員 30名	参加延 138名 参加 4組10名	年8回 定員30名	B 事業内容をほぼ達成した (80%)	美観町とケンブリッジの交流事業として、平成25年度まではケンブリッジ高校とセントビーズクラブの2校が、前年より1年毎交互に受け入れていたが、今年度はケンブリッジ高校のみとなったため、毎年受け入れが継続となっている。	地区によっては、利用人数に差が生じており、参加者増加に向け周知を工夫する必要がある。	継続	
高校生短期交換留学	美観高校・農業高校とセントビーズクラブの相互交換留学を実施し、語学学習と学校間交流を促進する。	まちづくり	年1回 定員 30名	参加延 138名 参加 4組10名	年8回 定員30名	B 事業内容をほぼ達成した (80%)	交流の推進と語学学習を中心とした留学により、人材育成が図られた。	新規参加者の拡大。	継続	
田んぼの学校推進事業	農業農村整備事業で整備した農地と土地改良施設への理解を深め、人材育成、都市と農村の交流、人間と自然の共生につなげる。	耕地林務	年50名 定員 50名	参加延 138名 参加 4組10名	年8回 定員30名	B 事業内容をほぼ達成した (80%)	水田や水路、ため池などを、遊びと学びの場として活用し、自然と人の関わりを学ぶことができた。		継続	
みどりの森 親の森 親の森 親の森	親子が仲良くふれあいがながら専門家の指導のもと年間を通して農園で農作物づくりを体験します。	みどりの村 振興公社	年50名 定員 50名	参加延 138名 参加 4組10名	年8回 定員30名	A 事業内容を達成した (100%)	参加者アンケートの回答内容から満足度の高さがうかがえる。		継続	参加経験者からの意見を聞き取り、満足度を高めたい。
みどりの森 元気の森事業	元気の森を活動エリアとして、子どもとその保護者などの大人たちにより、乳幼児から児童、生徒、大人まで、親子で森林体験の楽しさを学びあう機会を図る。	みどりの村 振興公社	年50名 定員 50名	参加延 138名 参加 4組10名	年8回 定員30名	B 事業内容をほぼ達成した (80%)	放作り森林散策については改善の余地があり、赤ちゃん記念庭園、森の工作教室は目標を達成できず、また、引きこもりや不登校の改善などの効果が表れている。	放作り森林散策につきましても、新たな企画をプラスする等して集客に努めます。	継続	内容の改善、新しい企画等を含み入れて継続していきます。
教育専門相談	児童生徒の悩み、家庭での教育について幅広い相談を受け。教育相談員 1名 不登校相談員 1名	学校教育	年60名 定員 60名	参加延 138名 参加 4組10名	年8回 定員30名	A 事業内容を達成した (100%)	児童生徒や保護者へ教育に関わる専門的なアドバイスが行われている。また、引きこもりや不登校の改善などの効果が表れている。	相談員の活動に対する周知に努めているものの、認知度が低いと思われる。更なるPRと専門知識の研鑽に努めていく。	継続	
少年少女水泳教室	水泳の基礎的技術の習得と体力の向上を図る。	スポーツ振興	年60名 定員 60名	参加延 138名 参加 4組10名	年8回 定員30名	E 善手できなかつた		似た種目の事業を実施していることから廃止。	廃止	
初心者パークゴルフ教室	パークゴルフの楽しさを体験し、健康増進を図る。	スポーツ振興	年50名 定員 50名	参加延 138名 参加 4組10名	年8回 定員30名	E 善手できなかつた		実施母体となる協会の実施希望がないため廃止。	廃止	

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業目標 達成予定年度	25年度実績	26年度予定	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡充の内容）
少年少女バトミントン教室	スポーツ活動を積極的に進めるために、運動プログラムに基づいたスポーツ教室を開催し、継続的にスポーツ活動経験させることにより、スポーツの日常化を促進するとともに、スポーツ団体、グループ等の組織育成を図る	7N-Y振興	年5回 定員 20名	年5回 11名延45名	年5回 15名延75名	B 事業内容をほぼ達成した (80%)	初回時に羽根を打つことができなかつた子どもでも、終了時にはラリーを繰り返して、ゲームを楽しむことができた。	年々、参加者が増加している半面、継続活動に繋がりが少ない状態である。協会独自で少年団を指定できるようにするなど協会と検討したい。	継続	
少年少女スケート教室	スケートシーズンの重なっており指導者の確保が難しい。協会との調整を図り、開催日時や実施回数を検討する。	7N-Y振興	定員 150名	年5回 20名延83名	年5回 20名延100名	B 事業内容をほぼ達成した (80%)	氷の上を一人で立てなかつた子どもも、終了後には一人で立てる様になり、傳られるようになった。		継続	
初心者スノーボード教室		7N-Y振興	定員 20名	年5回 12名延51名	年5回 15名延75名	B 事業内容をほぼ達成した (80%)	スキー場利用におけるマナーやヘルメットの習得、個々のレベルに応じて指導する事で、上達が伺えた。	学校や報道関係から開催を周知してもらい、参加者の更なる拡大を図る。	継続	
幼児体力テスト・運動実技指導	幼児の体力傾向を採り、運動を四方体力の向上及びチャレンジする意欲の高揚を図る。	7N-Y振興	幼児 定員 300名	年1回 100名 運動実技指導 2回 36名	年1回 98名 運動実技指導 2回 35名	B 事業内容をほぼ達成した (80%)	体力測定の結果から、全体的に体力の低下を認める。特に男子は体力向上に向けた運動プログラムを指導し、体力向上を図ることができた。	保育園・所で、それぞれの対象に合わせた適切な指導や教材の提供をし、子どもの体力向上へ繋げる。	継続	
水泳技能検定	水泳の継続的活動を促進し、技術・体力の向上及びチャレンジする意欲の高揚を図る。	7N-Y振興	年2回	年1回 41名	年1回 40名	B 事業内容をほぼ達成した (80%)	水泳少年団を中心に泳力検定を実施し、個々の水泳技能向上に繋がった。	目標に向かう意欲の高揚を図るため、参加する子ども達の練習強化や目標を定める工夫を図る。	継続	
親子で親しむスポーツ等の実施	親子で参加する運動、スポーツの機会を通して家族間の交流を図る。	7N-Y振興		年6回 13組延100名	年6回 17組延135名	B 事業内容をほぼ達成した (80%)	親子を通して子ども水に親しむ能力や親子のコミュニケーションを図ることができた。	参加者の拡大を図るため、広報だけでなく、幼稚園・保育所等へ連絡し、周知拡大を図りたい。	継続	
スポーツ少年団育成	スポーツ少年団の活動援助と結成促進	7N-Y振興	17団体	17団体	17団体	A 事業内容を達成した (100%)	昨年度と同様17団体の加盟があった。	スポーツ少年団の入団増加だけでなく、指導者育成に対し、行政側の取。	継続	
高校生トレーニング教室		7N-Y振興	年5回	年5回 18名延86名	年5回 20名延100名	B 事業内容をほぼ達成した (80%)	日赤北海道看護大教授である山本憲志准教授を招聘し、トレーニング理論や体力向上など専門的な知識を学ぶことができた。	大学教授からの専門的な理論や講話を取り入れ、参加者の興味が湧くような事業を引き続き実施する。	継続	
B&G会長杯町民水泳大会	大会を通して、水泳の普及振興を図るとともに町民の健康・体力の保持増進と相互の親睦交流を図る。	7N-Y振興	年1回	年1回 63名	年1回 60名	B 事業内容をほぼ達成した (80%)	美幌水泳協会が中心となって水泳大会を開催し、水泳愛好者の記録更新が図られた。	B&G海洋センターを利用する常連者への参加を呼びかけ、水泳愛好者の参加者増加を図る。	継続	
わんぱくスポーツ教室	土曜日の休日を利用して、身体活動を通して、異年齢の交流と協調性や創造力を高め、スポーツを楽しみながら健康体力づくりの積極的な取り組みを促進する。	7N-Y振興		年9回 37名延20名	年9回 45名延250名	B 事業内容をほぼ達成した (80%)	子ども達の多種多様な遊びや運動を体験することで、体を動かす楽しさを知ってもらい、体力向上、参加者同士の相互の交流が図られた。	指導者間の連携や指導の質向上に努め、より充実した運動体験が出来るようにする。	継続	
おはなしのへや（幼児・児童・父母）	豊かな人間性を育て、読書への関心を芽生えさせるための始末・紙芝居の読み聞かせを実施する。	図書館	年12回	年26回 延329名	年26回 延300名	A 事業内容を達成した (100%)	予定通り実施出来た。	多くの町民に利用して欲しい。	継続	
絵本とあそび（乳幼児・父母）（日わくわくとしょかん）	乳幼児を対象としたお楽しみ会、読み聞かせを行う。	図書館	年12回	年23回 延429名	年23回 延400名	A 事業内容を達成した (100%)	予定通り実施出来た。	多くの町民に利用して欲しい。	継続	
保育書読み聞かせ巡回	ボランティアの協力を得て、保育園において読み聞かせの巡回を行う。	図書館	年2回	2ヶ所 年22回	2ヶ所 年22回	A 事業内容を達成した (100%)	予定通り協力を得て実施された。		継続	
子ども映画会	映画鑑賞を通して、日本及び世界の文学を理解するとともに、親子のコミュニケーションの素材を提供する。	図書館	年12回	年12回 延223名	年12回 延200名	A 事業内容を達成した (100%)	予定通り実施出来た。		継続	
おはなしと工作の瓜	学校週5日制に伴い、子どもたちがお話しや工作を通して手作りの楽しさや物語の世界にふれる場として教室を実施する。	図書館	年12回	年4回 延39名	年4回 延40名	A 事業内容を達成した (100%)	予定通り実施出来た。	多くの町民に利用して欲しい。	継続	

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量・目標 達成予定年度	25年度実績	26年度予定	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・ 中止の理由、追加・拡充の内容）
手づくり絵本講習会	手づくり絵本を作る楽しさを普及するため、講座を実施する。	図書館	年1回	年1回 16名	年1回 20名	A 事業内容を達成した(100%)	予定通り実施出来た。	多くの町民に利用して欲しい。	継続	
学校文庫	学校単位で3か月ごとの1回巡回配布。	図書館	周辺校1校	周辺校1校	周辺校0校	A 事業内容を達成した(100%)	予定通り実施出来た。		廃止	平成26年度から旭小小学校に統合され廃校
学級文庫	学級単位で団体文庫を設置する。	図書館	市街3小学校	市街3小学校	市街3小学校	A 事業内容を達成した(100%)	予定通り実施出来た。		継続	
おはなし文庫	1セット55冊として期間中、月1回巡回配布。	図書館	季節保育所 12回	季節保育所 11回	季節保育所 11回	A 事業内容を達成した(100%)	予定通り実施出来た。		継続	
幼稚園文庫	幼稚園児を対象とした図書を毎月1回配布する。	図書館	幼稚園 12回	幼稚園 12回	幼稚園 12回	A 事業内容を達成した(100%)	予定通り実施出来た。		継続	
読書感想文コンクール	児童生徒の読書力、表現力の向上を目的として小中学校及び学校図書館協会との連携のもとに感想文を募集する。	図書館	年1回	年1回	年1回	A 事業内容を達成した(100%)	予定通り実施出来た。		継続	
児童生徒作品展	児童生徒の読書力、表現力の向上を目的として小中学校及び学校図書館協会との連携のもとに感想文を募集する。	図書館	年1回	年1回	年1回	A 事業内容を達成した(100%)	予定通り実施出来た。		継続	
ユニットライブラリー	図書館と地域を結び拠点として、毎週土曜日午後ご開館	図書館	町内5か所	町内2か所	町内2か所	A 事業内容を達成した(100%)	予定通り実施出来た。	利用者の拡大を図りたい。	継続	
図書館ボランティアの日	図書館ボランティアの日を制定し、図書館内でのボランティア活動の励みを認める。	図書館	年5回	年12回 延53名	年12回 延50名	A 事業内容を達成した(100%)	予定通り実施出来た。	協力者を多くしたい。	継続	
ブックスタート	10ヶ月健診時に乳幼児への読み聞かせの大切さや、その方法を説明することともに絵本などを配布する。	図書館		年10回 150名	年10回 160名	A 事業内容を達成した(100%)	予定通り実施出来た。		拡大	小学校1年生に絵本をプレゼントするブック2(セカンド)を平成24年度より行っている。
絵本展示	子ども読書週間に合わせ絵本の展示・紹介を行う。	図書館		年1回	年1回	A 事業内容を達成した(100%)	予定通り実施出来た。		継続	
夏休み子ども自然教室	動植物の野外観察と標本づくりを通して、身近に自然に親しんでもらう。	博物館	年3回 定員10名	年1回 延べ12名	年0回 延べ0名	D 着手はしたが一 定程度まで進ま なかった(30%)	事業内容は充実していた。目標が年3回になってきているが、時間的制約の都合で、年1回に変更したい	季節期が他の事業も集中していることもあり、時間に余裕がなくは26は実施を見送った。継続できるかどうか、検討していきたい。	継続	
こどもの日無料開放	柏餅配布、せんべい焼き体験、工作教室などを通して、身近に博物館を感ずってもらう。	博物館	年1回	年1回	年1回	A 事業内容を達成した(100%)	事業内容を充実していた	内容充実に努めたい	継続	
冬季作品展	町内の小中学校の児童生徒の作品を紹介	博物館	年1回	年1回	年1回	A 事業内容を達成した(100%)	事業内容を充実していた	内容充実に努めたい	継続	
学校教育との連携事業 (旭小小学校自然体験 事業)	先生と学芸員との連携による自然体験事業の実践。学校との連携のあり方を考える。	博物館	年8回	年7回	年20回	B 事業内容をほぼ 達成した(80%)	事業内容を充実していた	依頼件数が増えており、効率的な事業運営が求められる。	拡大	旭小だけでなく、町内全小中学校を対象とする。自然体験だけでなく、歴史体験、工作体験も内容に含めたい。

事業名	具体的事業内容	担当	事業目標 達成予定年度	25年度実績	26年度予定	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の事業方針	事業方針の内容(若実施・廃止・中止の理由、追加・拡充の内容)
自然講座	身近な自然をテーマにした講演会・観察会を通して、美幌の自然の面白さや貴重さを知ってもらう。	博物館	定員 30名	年 7回 延べ 245名	年 7回 延べ 250名	A 事業内容を達成した(100%) D 着手はしたが一定程度まで進めなかった(30%)	事業内容を充実させていた	内容充実努めたい	継続	
子ども工作教室	簡単な電子工作を行い、工作する面白さを知ってもらう。	博物館	年3回 定員 10名	年 1回 延べ 9名	年 1回 延べ 9名	A 事業内容を達成した(100%)	美幌ふるさと祭りの出店、イベントから鑑力回(副指導)を排除し、青少年の健全育成を促進する。	内容充実努めたい	継続	
児童館機能を有する子ども拠点施設の整備(コミュニティセンターの充実)	コミュニティセンターに児童館機能を入れ、子育て、発達支援し、子どもを始め親子の居場所づくりを重点的に取り組む。	まちづくり	(21年度)	子ども横丁設置。公園内禁煙とし、子どもの安全を確保。	子ども横丁設置。公園内禁煙とし、子どもの安全を確保。	A 事業内容を達成した(100%)	美幌ふるさと祭りと鑑力回を排除しており、子供達が安心して楽しめる子ども横丁を設置や公園内の禁煙により、青少年の健全育成が促進された。	美幌ふるさと祭りの出店者について、町外者(鑑力回)が入り込む余地あり)の従事許可を求められているため、検討が必要。	継続	
有害図書・有害情報規制活動の推進	有害図書やインターネット、携帯電話の有害情報に対する規制などの浄化活動を推進する。	児童支援 社会教育	(21年度)	オホーツク総合振興局による浄化活動への支援	オホーツク総合振興局による浄化活動への支援	A 事業内容を達成した(100%)	随時連携して取り組んでいる。	今後も継続して支援を行う。	継続	
青少年非行防止運動	町内の小・中・高校生を対象に、防犯意識の高揚と青少年の非行防止を目的とした標語の募集を実施し、入選作品10作品を表彰している。	まちづくり		中学生対象... 470点 応募	高校生対象... 応募	A 事業内容を達成した(100%)	青少年少女の非行防止の意識を高めることができた。	町内の学校全てから応募がなされるような対応が必要。	継続	

4 子どもと子育てに優しいまちづくり

薬物、喫煙防止等活動の推進	薬物乱用や喫煙防止のため教育、指導活動を推進する。	保健福祉	(21年度)	薬物・禁煙教育 小学生：139人	薬物・禁煙教育 小学生：190人	B 事業内容をほぼ達成した(80%)	学校と連携しながら、薬物・喫煙についての健康教育を実施し学習の機会をもつことができた。	今後も継続実施に向け、学校と連携を図っていく。	継続	
声かけ運動の推進	おはよう、こんにちは、車に気づけてなど、地域の子どもたちへ声をかけることによる見守り活動	社会教育	(21年度)	年15回実施 新入学組、始・終業日、春・夏・冬休み、不審者情報時	年15回実施 新入学組、始・終業日、春・夏・冬休み、不審者情報時	A 事業内容を達成した(100%)	始・終業式を中心に、地域の大人が子どもたちを見守っているという姿を見せることができた。	計画した声かけ活動以外の日常においてもぜひややかな挨拶を交わらせる地域を目指し取り組みを進める。	継続	
交通安全教室の開催	小中高校、幼稚園、保育所、保育園等を対象に交通安全指導をする。	まちづくり	年17回	年36回	年31回	B 事業内容をほぼ達成した(80%)	子ども達の交通事故防止のため幼稚園・小学校等の協力をいただき個通安全について意識啓蒙を図ることができた。	高校については独自で実施しているが、それぞれの対象に応じた適切な指導や教材の提供など内容の充実を図っていく。	継続	
全町自転車安全運転教室の開催	自治会交通安全部会、自治会女性部、警察、交通少年団等の協力を得て、安全運転の実技指導をする。	まちづくり	年1回			E 着手できなかった	各学校や団体に出向き交通安全教室を開催している。		廃止	各学校や団体に出向き交通安全教室を実施しているため。
交通安全ポスター・作文コンクール	交通安全の意識の啓発のため、町内小学生からポスター・作文を募集し、作品を展示する。	まちづくり	年1回	年1回 約250名参加	年1回 約600名参加	B 事業内容をほぼ達成した(80%)	小中学校へ協力を依頼し、児童生徒へ交通安全に対する意識の高揚を図ることができた。	ポスターの出展数の減少や作文の提出がないなど取り組みについてさらに協力を求める必要がある。	継続	
消防子ビッチ大会	子どもたちが消防署に親しみ、防火に対する意識を高め、遊びを通して火遊びなどを防止し、安全・安全なまちづくりを行う。	消防		年1回 約250名参加	年1回 約600名参加	A 事業内容を達成した(100%)	平成25年度は雨天のため参加者が減少しているが目標値の400名を達成している。	雨天時は屋内で開催しているが天候に左右されない事業の検討	継続	
子どもの安全確保の充実	登下校時における児童生徒の安全を確保するため不審者情報を携帯電話などにより周知する。	学校教育	(21年度)	継続	継続	A 事業内容を達成した(100%)	教育委員会が把握した情報が速やかに多くの戸へ周知出来、児童生徒の安全確保に繋がっている。	導入当初からのシステムのため、ソフトの更新が必要。(使用できるバージョンが限られているため)登録者数の更なる拡大を図る。	継続	
子ども110番活動の充実	子どもを犯罪から守り、被害を最小限に止めるため、トラブルに巻き込まれそうになったときに助けを求める場を確保する。	まちづくり	(21年度)	0世帯	0世帯	C 一定程度実施できた(50%)	新規登録世帯は少ないが、登録世帯を把握し対応したものが学校に配付されているため、一定程度実施できている。	新規登録世帯の増や既登録世帯の更新が必要。	継続	